

グループ番号 6

グループ名 6 (シックス)

メンバー

- ・ 04g084 河合 敬
- ・ 04g091 菊池 雄真
- ・ 04g042 岩根 佑介
- ・ 04g133 佐々木 秀彰
- ・ 04g238 堀田 幸平

コンセプト

今日、世界が直面している問題「温暖化」について調査し、車から出る排気ガスによるオゾン層の破壊について調べることによって私たちが有意義な生活を送ることができるのではないかと考えました。わたしたちのライフスタイルの変化が知らず知らずのうちに大きな影響を与えているようなので、それらの原因をしらべていきたいです。

○分析方法

- ・ 今までの平均温度を調べてどれくらい上がっているかを分析する。
- ・ 車やエアコンから出る排気ガスやその他の有害物質が温暖化に影響を及ぼしているか分析する。に意見を聞く。

○調査方法

- ・ インターネットを使って調べる。
- ・ 図書館を使う。
- ・ 専門家に直接あって話を聞く（教授など）。

○作業分担

- ・ 菊池、佐々木が図書館組
- ・ 堀田、岩根がインターネット組
- ・ 河合は、専門家

○調べた理由

ここ最近、世間で環境問題が取りざたされている。その中でも私達は地球温暖化について調べることにした。もっと環境問題（地球温暖化）が身近で深刻な問題であることを一人一人が実感していく必要があるのではないだろうか。

調査内容

- ・ ここ数年で平均気温が何度上がったか調べる。
- ・ オゾンがどのくらい破壊されたのかを調べる。
- ・ 北極や南極の氷の減り具合。
- ・ 森林伐採
- ・ 車の排気ガスの量
- 平均気温について

産業活動の活発化に伴い、石油や石炭などの燃焼や森林伐採による土地利用の改変によって、平均温度は年々上昇しています。近年では、産業の発展や森林の開拓などの人間活動の活発化に伴って、温室効果ガスの濃度が増加し、地球規模での気温上昇（温暖化）が進行しているのである。

○オゾン層の現状

オゾン層の破壊は、1996 年ころから、徐々にオゾン層は減少して 1979 年頃に、南極上空で発見された現象でしたが、その後南極では「オゾンホール」といわれるまでにオゾン層が減少しつづけています。

○北極や南極の氷の減り具合

地球観測衛星テラにより、昨年になって起こった、南極大陸の巨大な氷棚の崩落が観測された。2 月、南極大陸に面した指の形でお馴染みの南極半島にある長さ約 8 2 ㎞、幅約 6 2 ㎞の巨大な氷棚の一部が崩れ落ち漂流し始めた。いずれも南極地域で進んでいる温暖化が一因である。

○森林の伐採

森林伐採についての規制これは東南アジアなどの森林地帯での乱開発に歯止めになり、木材の輸入依存度の高い日本が、森林伐採の防止に積極的に取り組んでいくことは大きな価値があると感じます。今、使っているエネルギーはどこから来ているのか、それらの産地はどのような状況にあるのかなどに関心を持ち、地球全体の価値の回復、向上を図る必要があるのではないのでしょうか。

○排気ガスの量

CO（一酸化炭素）は 0.67g/km。これは昭和 5 3 年の規制値と比べると約 3 1 %まで削減されています。HC(炭化水素)は 0.08g/km。同、32%減。NOx(窒素酸化物)は 0.08g/km。同、32%減。ただし、上記は規制値であり、この規制値を大幅に下回り、排気の少ない自動車も増えている。一方、CO₂（二酸化炭素）は、自動車の大きさによって異なるが乗用車でいうと、150 g/km を超えるくらいが排出されている。これもハイブリッド車などでは半分くらいである。年とともにさらに改善が期待される。

○まとめ

・地球環境温暖化というテーマを調べてみていくうちに、もっと私達自身が出来ることを実行することが大事だと思った。

・もっと社会全体で危機感を持って温暖化について考えなければならない。

・このページをみて少しでも地球環境についてかんがえてくれるなら嬉しいです

メッセージ

深刻な地球温暖化にストップをかけるためには、一人ひとりが問題意識を持ち、省エネを実行することが大切です。例えば、家庭内の食生活にかかわるエネルギー使用量のうち、冷蔵庫・ガスコンロ・給湯器が約 90%を占めています。たくさんのエネルギーを消費しているところから重点的に省エネ対策をしていくことが効果的です。